

# にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ



No. 109

## 世界の国からこんにちは!

— 城とだんじりのまち岸和田! —

## 今年も賑わった! 外国人のための“だんじり インフォメーションセンター”

■9月17日(土)18日(日)第25回目の「だんじりインフォメーションセンター」が開設されました。

強い台風16号が与那国島付近にあり、秋雨前線が刺激され列島全体がぐずついた天候でだんじり祭りも随分心配しましたが、両日も大きな崩れがなく何とか今年もよい祭りが繰り広げられました。

■「だんじりインフォメーションセンター」へは両日併せて220名を優に超す来訪者があり(詳細は別掲)連日大賑わいでスタッフは対応に大わらわ。紅白の鉢巻にハッピーを羽織り、紅白の大ウチワ等を手に記念写真を撮るなどセンターは終日楽しく賑やかな雰囲気に包まれました。

■2日目、信貴市長が激励に訪れて下さり、「観光振興を考える上で外国人への爽やかなおもてなしを毎年有難う。年々数が増えていくのは嬉しい限りです。」と述べられ、外国人グループとも気安く記念撮影に加わ



て頂きました。相前後して「テレビ岸和田」から祭礼ビデオ作成の取材があり、多くの外

国人お客様にカメラを廻しインタビューが繰り返され一段と活気づいたセンターになりました。

■近年、センターを訪れる日本人観光客は観光振興協会のスタッフが常駐し、外国人との振り分けが出来たことで



運営がスムーズになったことは大変喜ばしいことです。

■センターの真正面には「八町招待席(主に高齢者)」が設けられています。宵宮の17日午前八町だんじりが数回通過し賑わいましたが、それ以外は南海線岸和田駅前へ上がって来るだんじりは極めて少ない状況です。市内外の観光客とりわけ遠来の来岸者対策を考える時に差し掛かっているような気がします。

(桐原 喜彦)



「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にきた親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

# おもてなし ひと言コメント

## だんじり インフォメーションセンター

2016外国人のための

今や岸和田だんじり祭りは、世界に馳せたる祭りとしてすっかり定着しました。関西空港に近いという利点を活かしながら、日本での最初の観光スポットとして、岸和田だんじり祭りを見物に訪れる外国人観光客が年々増えています。今年は昨年より微増の33カ国 226名（記帳者のみ）の来訪者をお迎えました。インターネットによる事前入手情報と Google 表示のスマホを片手に、大きなスーツケースはセンターに預けて見物スタート！（広報部会）



### 卒業旅行中（チェコ）

大学を卒業したばかりで、現在世界一周旅行中。日本では5週間の予定で旅行中のカトカさん。英語を話せる日本人が少ないのでちょっと不便ですが、とにかく日本人は親切なので、安心して旅行できることを大変喜んでいます。



リュックはセンター内に預け、優しいスタッフ2人と共にだんじり見物へ。数時間後戻ったらTV取材が待っていました。

### 遠い国から（アルゼンチン）

ブエノスアイレスから30時間かけて母親と弟さんが、大阪大学で日本歴史を学んでいるお兄ちゃんに、毎年会いにやってくるガラシノさん一家。父親はお仕事で来られませんでした。来年はぜひ日本で一家そろってだんじり祭りを楽しみたいそうです。お国では牛肉はキロ単位で売られていますが、日本では10倍の値段にビックリ。



### 東欧から仲良し3人組先生（ポーランド）

モージョさん、ジャンさん、ザウアダさんは中学校の仲良し先生で、新学年前の休みを利用して2週間の予定で日本をピンスポットにして旅行中。数年前から計画していたようですが、高山、白川郷、妻籠、馬籠。。。などの事前知識の豊富さに驚かされました。

岸和田だんじり祭りはたまたま予備の日で、ホテルのフロントで知ったようですが、東欧にはない勇壮豪快さで、見物者と一体となって楽しむ祭りの光景にすっかり感動されたようです。



### 国際カップルハネムーン中（スペイン＆イタリア）

ホセ＆ルシアさんは新婚ホヤホヤで、15日間で日本を旅行中です。ハネムーンになぜ日本を選んだのか、それは西洋文化と東洋文化が調和よく混在し、日本的な美しい風景にひかれた。交通の便も整備され、日本人はととても礼儀正しい。安心して旅行できるからだそうです。スペイン人、イタリア人は祭りが大好きです！だんじり祭りにあわせて、旅程を組んだそうです。この写真をぜひメールで送ってくださいと依頼を受けています。



### こちらもラブラブ結婚（ボリビア＆ジャパン）

ロドリゴ＆レアさん。お2人の馴れ初めについて、なかなか明かしていただけなかったですが、相思相愛のラブラブ結婚であることは間違いありません。

2年前に結婚、1年前からご両親の住む地元岸和田に住むようになり、かわいい息子さんが誕生しました。まだ人見知りするのか、優しいTVインタビューアーのお姉さんに恥ずかしそうです。ロドリゴさんはすっかり日本の生活にも慣れ、起業した貿易業も成功し順調に伸びているそうです。



### だんじりエンジニア？（エチオピア）

アブベーカーさんはロンドンでマスターコース終了後、JICA名古屋で建築エンジニアとして、日本の建築技術も学んでいるエリート青年です。日光の陽明門の建築技術に非常に心を奪われたが、だんじりの木彫りと非常によく似ているとの指摘はさすがです。やりまわしの梃応用力学に感心していました。将来母国に帰り、貧しい人たちが少しでも快適に住めるような街づくりができることを夢んでいます。



## 姉妹都市平和キルトに協力



市の姉妹都市米国サウスサンフランシスコ市ロータリークラブより「平和キルト」製作依頼が市にあり当協会は18枚のキルト作成に協力しました。

キルトは、サウスサンフランシスコ市から、岸和田市、メキシコのアトニコ市の各団体に依頼され最終3枚のタペストリーに縫い合わされました。5月31日に来岸したサウスサンフランシスコ市青少年訪問団に託された1枚が、岸和田東ロータリークラブに贈られました。

協会が協力したキルト



平和を願う気持ちが、ひと針ひと針にこめられた作品は素晴らしく、それぞれの国で平和を進めていくというきっかけになることを願います。(事務局)



岸和田東ロータリークラブに贈られたタペストリー

## 「日・台友好の響」2016

7/8  
(金)



7月8日(金)夜、日・台友好の響実行委員会主催のもと、一昨年に続き、台湾新北市(New Taipei City)青年民族管弦楽団による演奏会が市立浪切ホールで開催されました。

二胡、揚琴、琵琶、チャルメラといった伝統楽器とチェロ、コントラバス、パーカッションなどで編成された38名の青年男女による演奏は、台湾各地方の楽曲を民族色豊かに、

時には過ぎ去った田舎の生活に想いをはせ、時には過酷な歴史を辿りつつ、時には優しく、時には激しく、参加した200名近くの市民などの聴衆を魅了しました。

プログラムの最後、ジャズ・ナンバー『テイクファイブ』の軽快なメロデーに会場からブラボーの声援。鳴り止まぬ拍手にこたえて『となりのトトロ』、童謡『ふるさと』などをアンコール演奏、音楽や芸術を通じた市民交流の暖かさや大切さを体感できたひとときであったと思います。

最後に大型楽器の貸し出しにご協力いただいた久米田高校と貝塚市の近義幼稚園の皆様にも深く感謝いたします。(「日・台友好の響」実行委員・井上 實)

**日・台友好の響**  
台湾：新北市青年民族管弦楽団

【観覧料】  
2016年7月8日(金) 18:00開演 18:30開演  
観覧料は前売券と当日券とに分かれています。前売券は、会場に限り、当日券は、当日17時以降に会場に入場する方のみに入場可能となります。当日券は、当日17時以降に会場に入場する方のみに入場可能となります。当日券は、当日17時以降に会場に入場する方のみに入場可能となります。

日時・・・2016年7月8日(金) 18:30開演(18:00開演)  
場所・・・岸和田市立浪切ホール(小ホール)  
料金・・・1,000円(全席自由席)

【お問い合わせ先】日・台友好の響実行委員会 事務局0706430230



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとられず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

### 《続・日本とキューバとの合作映画「東の狼」》



前号で紹介したキューバの新星カルロス・M・キンテラ監督(脚本)と河瀬直美監督(プロデュース)のもとに、奈良県東吉野村を舞台にした合作映画「東の狼」が漸くクランクアップした。そして私は原作原稿の翻訳者として「なら国際映画祭2016」初日の9月17日(土)オープニングイベントに招待され、内外からの多くの俳優・著名人に交わりながら、多くの観客とメディアが見守る中で、レッドカーペットを歩く栄誉に恵まれた。

プレミアム上映のあと、パーティーでは河瀬監督や主役を演じた藤竜也さんとは、物語の背景を知らされないままの翻訳の難しさ、それをもとに仕上げる日本語の脚本の難しさ、監督の心をいかに反映しながら演じ切るか、撮影中での国際コミュニケーションの難しさを話し合う機会があった。しかし数々の苦難を乗り越えたこの作品の出来栄は素晴らしいもので、このような映画の製作に微力ながら貢献できたことは、身に余る光栄である。スペシャルゲストの斎藤工さん、三上博史さん、別所哲也さん、高橋克典さんなど日頃画像でしか拝見できない方々とも、親しく話し合えたことも、終生忘れ得ぬ思い出として残るであろう。ただ唯一残念なのは、カルロス監督が止むを得ぬ事情で、晴れの舞台にご出席できなかったのが残念でならない。

「なら国際映画祭」の目指すところは、平城京の昔、海を越えて多くの人々が交流したというこの奈良で、今、映画を通じて世界の多くの人々が出逢い、そしてここからまた新しい才能が花開いていくことを願う映画祭である。今年で4回目であるが、幾久しい映画祭となることを願っている。

最後に「東の狼」は、鑑賞に値する作品であることを確信していますので、一般公開の際はぜひ鑑賞いただくことをお薦めします。(塩屋 裕)



6/18 Belagula Manjunath  
Goutham さん (インド)

今回のプレゼンテーションのゲストはインド出身の Goutham さんでした。Goutham さんはインド南部 Bangalore 出身で、現在大阪府立大学で生化学の研究をされています。

私達はインドといえば、カレー、ヨガ、ダンス映画、人口が多いといったイメージがありますが、お話を聞いてまだまだ私達の知らない事がたくさんあることに気付きました。まずびっくりしたのが言語の多さ。なんと地方のものも含めると 325 もの言語があるというのです。ただメインは英語とヒンディー語で、英語ならば通じるといので、旅行の時には少し安心です。

美しい観光スポットがたくさんある事も知りませんでした。景色のきれいな町、素晴らしい寺院、西部に行



けばビーチもあり自然がとても豊かです。私達が訪れるべき場所はたくさんありそうです。

インドでは電車が遅れるのは普通だが、日本では正確なダイヤがあたりまえというふうに、日本の規律にもとづいて成り立っている社会がすばらしいとおっしゃいます。そう言う Goutham さんは親日家でいらっしゃって、着物を着てみたり、お茶会に参加されたり、USJ に行かれたりと日本を楽しんでおられるようです。日本に長く住みたいとおっしゃる Goutham さんが今後も日本で素敵な経験ができることを祈っています。  
(匿名)

7/16 Tora Moriguchi さん  
(日本)

今回のゲストの TORA 氏はソフトでユーモアのある語り口のユニークな人生を重ねていらっしゃる方です。

1ドル 360円時代の 20歳の時カナダに移住、37年間過ごされ 10年前に帰国されました。バンクーバー到着早々、ヒッピーの群に遭遇。移民事務所での思惑違いから逃した移民支給金! トロントの職業紹介所では 100数ページにわたる適性検査の末、“君は芸術家になったらよい”と言われ、国立 Rochdale College に入学手配までされ、art の勉強をすることになったそうです。ところが、初日にマリファナタバコの洗礼、日本とはまるで異なる教師と学生との関係、College に蔓延するドラッグ!



そして警察によるドラッグの一斉捜索等々。全てが現在とは比較にならないほど強烈なカルチャーショックの連続だったようです。

カナダで一番人気のスポーツであるホッケーに地域で唯一の東洋人でありながら代表者として関わり、また Rochdale Collage では無二の親友を得るなど、まさにカナダ人として過ごされてきたような印象をうけました。  
(中林 孝子)

8/20 Bevan Brown さん  
(USA)

今月のゲストはアメリカ・テネシー州出身、日本に来て 1年、高石市や岸和田市の教会で英語の先生をしておられる、Bevan Brown さんでした。少女らしさの抜けない顔つきですが、お話は活発でくわしく、キャンプで作るマシュマロ菓子の作り方教室やビンゴゲームまで盛り込んで、2時間たっぷり語ってくれたので、テネシーのことがすっかり解かった気になりました。

その中でもメイン・ストーリーは、湖や森や動物など自然環境が豊かな Knoxville 市周辺でログキャビンに住んでいた少女時代と、犬、猫、ドンキーを含めた家族との生活。ヘミングウェイに似ている (これは私の指摘) 彼女のお父さんはインディアンの血を 8分の1引いている (従って彼女は 16分の1)。10才年上でサッカー、バスケットやゴルフをするお姉さんは、50本のバラ園の世話をしている、社交的で活動的なお母さんの前夫との娘とか (アメリカらしく野性的ですね)。又忠実で水遊び好きの大きなラブラドルとは、彼女が湖に潜って溺れたふりをす



と、心配してしっぽを掴ませ岸まで泳いで助けるとい遊びをしたとか (悪いやつですね)。その他ユニークな3人の甥や姪と3匹のドンキーの話など。

もう一つのメイン・ストーリーは、彼女が受けて育ったホーム・スクールのこと。日本人にはあまりなじみがないが、アメリカやオーストラリアでは結構盛んで注目されている教育法です。つまり普通の学校には通わない選択をし、オンラインや家族やそれを補助するシステムによって小・中・高の教育を受けるのです。彼女はそれから立派に大学を卒業し、現在望み通りに海外で働く仕事についているわけです。その功罪についても積極的に語ってくれました。  
(金児 尚)

## 「日本語サロンだより」コラム新設について

岸和田市国際親善協会は現在約450名の会員数を有し、外国人サポートのためのいろいろな事業を行っています。その一環として日本語サロン部会では、現在2年間の養成講座を修了した約60名の登録ボランティアが、様々な国籍の外国人サロン生約100名のために、市内5カ所で日本語の指導に当たっています。学習者層も技能実習生、婚姻による滞在、起業家、留学生、英語補助指導員、母国での日本語指導者を狙う人等々、多岐に亘り、近隣の企業、諸団体からも高く評価されています。さらに日本語の学習以外にも、日本の文化や習慣に少しでも親んでいただけるようないろいろな工夫を凝らした企画も各日本語サロンで実施しています。

このような日本語サロンの活動状況を、より広く、より詳しく知っていただくために、次号110号よりコラム「日本語サロンだより」を新設することになりました。そして毎号各サロンからの交替で、それぞれの特徴を生かした独自の活動方針、サロン生との交流、イベント報告、現状抱えている問題点やサロン生のコメント等々、盛りだくさんな内容を報告して頂くコラムです。これにより日本語サロンの更なる活性化を図り、国際親善への貢献に繋がることを願っています。(広報部会)



## 関西国際センター留学生ホームビジット受け入れ体験談

5月にはキルギスからのアセーリさんとカザフスタンからのディリヤさんのお二人、7月にはロシアからのターニャさんとベトナムからのナムさんのお二人のホームビジット受け入れをしました。ホームビジットは10時30分に関西国際センターにお迎えに行き、20時ごろの帰宅となります。よく友人からは、短い時間での交流は忙しくないの?とか、短い時間で仲良くなれるの?と質問をされるのですが、なぜかとても心が通った気分になるところが不思議だなと思います。どの方も日本語が上手でコミュニケーションに困らないところも一つの要因かな、と思います。そして、留学生の方の、日本の文化を知りたい、家族と素敵な時間を過ごしたいという開かれた思いが素敵な時間を作りだしてくれているのだな、と感じます。



7月の受け入れでは友人宅でのパーティーにお呼ばれし、流し素麺やスイカ割りと一緒に楽しむことができました。留学生の方は自国の様子をパネルにまとめてきてくださり、多くの友人とそれぞれのお話を聞くことができました。私には小さい子どもが居り、自分が海外へ出るのはまだ難しいのですが、外国の方が家に来てくださると異なる文化と交流することができます。日常では出会うことがないであろう外国の方とお話をしていると世界がとても近くに感じ、人間ってどこの国でも同じようなことを思い、同じように過ごしているのだな、と感じます。どの人にも生活があり、目標があって大切な家族が居て、日本で過ごすこの時間を大事に思っているのですね。そして自分の国に来た時は必ず連絡してね、と



言ってくれます。何度かホームビジット受け入れを経験し、今では世界中に友人ができました。このつながりをいつまでも大切にしたいと思っています(ヒッポファミリークラブ 宮本 友美)

## 地球家族

### 『桜と国際友好』

花見は古事記や徒然草にも記され秀吉の醍醐の花見等歴史の名舞台上に登場する。



1885年、桜に魅せられた米国の紀行作家エリザントモア女史はワシントンに桜をと動き出すが移民排斥、反日感情の高まりもあり難航する。その後20年余の停滞を経て1909年に尾崎東京市長が苗木2千本を送るが海路の途中で病虫害に侵され到着後全て焼却処分となる。同市長は、これにめげず1912年に再挑戦する。苗木3千本はワシントンに到着しヘレンタクト大統領夫人により植樹される。100年以上経過した今ポトマック河畔で咲き誇り全米桜祭りが開催され日米友好のシンボルとなっている。

1902年に来日した英国の鳥類研究家イングラムは桜に感動し多くの品種を持ち帰り自宅に植える。20年後、東京荒川堤を訪れ地元の桜守から大白品種(純白の大きな花)の絶滅を知らされる。大白なら自分の庭にあるとして里帰り計画をスタートさせる。1932年船便で送るが到着時には枯れている。その後2回の失敗を経てシベリア鉄道で送付しウラジオストクから京都についた大白は生きていた。しかし戦争の影が忍び寄り時代で敵国から里帰りした桜は尊重されず近くの結核療養所に秘かに植えられ平和が訪れる日を待ち、遂に桜の多種性を重視した英国人の思いが実現する。

花は心に潤いを与え和ませる。これは万国共通であるが特定の花の動向に一喜一憂し開花と共に大勢の人が集まり賑やかに飲食する花見は日本独特の文化ではないか。東の間の絶頂を謳歌した後、儂くもはらはらと散っていく。それは無常観、ものの哀れを感じる日本人の感性、美意識にマッチする。勿論、外国にも野外で花を觀賞する風習はあり昨今「花見」の海外報道では「花見」という日本語がそのまま使われることも多い。

Cherry blossom viewing から、Hanamiへ。(奥野 藤樹)

# 岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。



Living in  
**岸和田**  
KISHIWADA  
第19回



第19回は南米・ペルー出身の日系4世 藤井町在住のご夫妻です。

フタガキ ヨバナさん(奥さん)  
フタガキ ラソ ルイス ヨシローさん(ご主人)

ご夫妻の出身地 Madre de Dios は、「神の母 / 聖母マリア」という意味の聖なる地名で、人口11万の州です。

首都リマからでも陸路で約40時間かかります。近くには世界遺産マヌー国立公園があり、アマゾン源流域の一つに位置しているため、800種の鳥類、1300種の蝶類、300種の蟻類、200種の魚類などの動物相や20,000種の植物相など、世界屈指の多種に亘る生物の宝庫の母という意味でこの地名がつけられています。気温は26℃～40℃、年間降水量は1,500mmで熱帯特有の高温多湿の気候ですが、時として8℃まで下がる場合もあるそうです。

それでは、そんなに遠いところから、どうして岸和田に住むようになったのでしょうか。最大の理由は、本国では安定して生活を維持できる仕事がなく、ヨシローさんの約100年前の家族のルーツである日本で働きたいと、知り合いを頼って来日したのが、2003年大阪です。そして恋人であったヨバナさんも2007年来日。2年前から



フタガキご夫妻

岸和田に住むようになりました。現在は親戚、兄弟と一緒に5人暮らしています。ヨシローさんは優秀な溶接技術者として、ヨバナさんも衣服関係の仕事をしながら、もうすっかり日本での生活には慣れましたが、やはり日本語でのコミュニケーションには苦勞しているようです。

漢字が全く読めませんので、「広報きしわだ」や町内回覧などの重要な情報手段からは隔離されている状態です。また、医療についても、近くにどのような病院があるのかわからず、治療を受けても満足に症状を訴えることができず、またボランティア通訳をどこに頼んでいいのかわからないまま、何とか今日まで暮らして来たそうです。それでも岸和田が大好き! 皆さん優しい! すし、たこ焼き、刺身、お好み焼き、何でも大好き! 「だんじり! ワクワクしています」。

ヨバナさんは11月に待望の第1子誕生の予定で、大変楽しみにしながら、かわいいベビーグッズを準備しています。

(取材: 塩屋 裕)



## Information

### ■English Open Café の開催

(と き) 9月以外の毎月第3土曜日 13:30~  
(と ころ) マドカホール3階 視聴覚室  
会員以外の方も参加自由です。毎回いろいろな国のスピーカーをお迎えしています。

### ■「ふれあい交流祭り」スタッフ募集のお願いと参加のお願い

田尻町にある関西国際センターで日本語を学んでいる外交官などの研修生と交流する祭りです。当協会は「日本の遊び」と「ブラバクセサリー作り」のブースを出します。  
(と き) 11月23日(祝) 13:00~16:00  
(と ころ) 関西国際センター(りんくうタウン)無料駐車場有り  
スタッフは10:30集合~16:30まで。  
事務局まで事前にご連絡ください。

### ■日本語ボランティアレベルアップ講座「日本語サロンボランティア交流会」

(と き) 10月29日(土) 13:30~15:30  
(と ころ) マドカホール3階 視聴覚室 申込締切: 10月21日。

### ■みんなあつまれ~地球どんぶり「みかん狩りに行くよ」

(と き) 11月20日(日) 10:10~16:20  
(と ころ) 北阪観光農園(きたさかかんこうのうえん)  
詳細は別途チラシをご参照ください。申込締切: 11月5日。

### ■みんなあつまれ~地球どんぶり「苔テラリウムづくり」

(と き) 12月11日(日) 13:30~15:30  
(と ころ) マドカホール2階 創作室2  
(参加費) 500円(材料費800円中一部負担)  
詳細は別途チラシをご参照ください。申込締切: 11月30日。

### 訂正とお詫び

108号1頁 第二部「Maya(麻耶あきら)さん」は、「maya(摩耶あきら)さん」に訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。

にゅとびあ岸和田 No.109 編集担当

緒方理世・奥野藤樹・栗尾宣子・塩屋 裕・藤平敬子・三森すみ代  
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072)457-9694